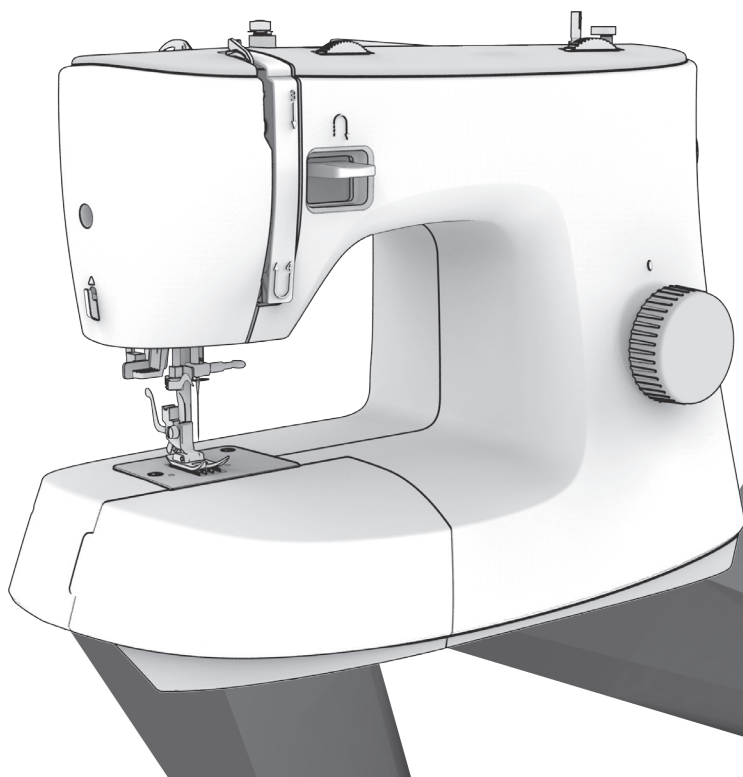


NECCHI

使用の手びき

型式: K121A



このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末永くご活用ください。

◆ はじめに

このたびは、ミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用ミシンです。

このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

◆ 安全にご使用いただくために

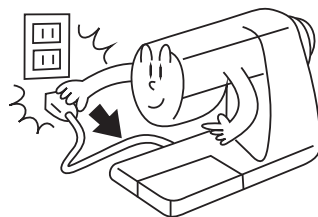
このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。

This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

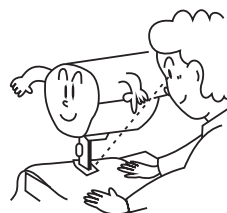
⚠ 警告：感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ ミシンを使用したあと。
 - ・ ミシン使用中に停電したとき。
 - ・ 接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき。



⚠ 注意：感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. お客様自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。
3. ミシンの操作中は、カマカバーなどのカバー類は、必ず閉めてください。
4. 曲がった針、先の痛んだ針はご使用にならないでください。



◆ 安全にご使用いただくために

6. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。
7. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
8. 以下の事をするときは、電源スイッチを切ってください。
 - ・ 針、針板、押えを交換するとき。
 - ・ 「使用の手びき」に記載のあるミシンの手入れをするとき。
 - ・ 原則として上糸、下糸をセットするとき。
9. ミシンに以下の異常があるときは、すみやかに使用を停止し、まずはご購入いただいた販売店にご連絡ください。
 - ・ 正常に動作しないとき。
 - ・ 落下などにより破損したとき。
 - ・ 水に濡れたとき。
 - ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - ・ 異常な臭い、音がするとき。
10. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机に置いてご使用ください。



◆ ミシンの取り扱い

1. シンナーやベンジンなどでふかないでください。
2. 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさげてください。
3. 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。



◆ 仕様

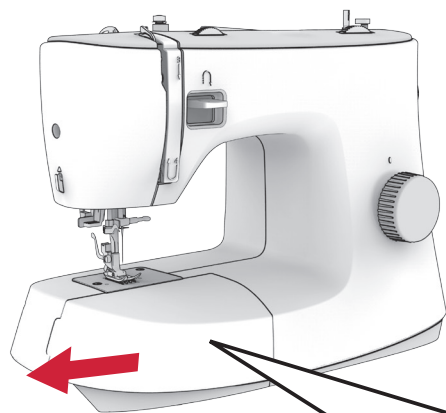
型 式	K121A
定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	70W
周 波 数	50Hz/60Hz
L E D ラ イ ト (※)	Max. 100mW
寸 法	幅：409mm x 奥行：183mm x 高さ：301mm
重 量	5.8kg(本体のみ)

(※) LEDライトは非常に長持ちですので、通常交換の必要はありません。もし万が一交換の必要が生じた場合には、お買い上げの販売店にご相談ください。

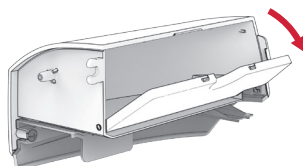
◆ 目次

はじめに.....	1
安全にご使用いただくために.....	1,2
ミシンの取り扱い.....	3
仕様.....	3
目次.....	4
付属品.....	5
補助テーブル.....	6
各部の名称.....	7
電源のつなぎ方と始動・停止.....	8
下糸の巻き方.....	9,10
ボビンとボビンケースのセット方法.....	11,12
下糸の調節方法.....	12
補助糸立棒の使い方.....	12
上糸のかけ方.....	13,14
糸通しの使い方.....	15
下糸の引き上げ方.....	16
針の取り外し方と取り付け方.....	17
布地に適した針と糸の選び方.....	18
上糸調子の合わせ方.....	19
布地の裏側がタオル地のようにするのは.....	19
押えの取り外し方と取り付け方.....	20
押えホルダーの取り外し方と取り付け方.....	20
シームガイドの取り付け方.....	20
押さえ上げレバー.....	21
送りカバープレートの使い方.....	21
模様の選び方.....	22
一般模様の送りの長さ、ふり幅の調整方法.....	22
直線ぬい.....	24
返しぬい.....	25
ぬい方向のかえ方.....	25
厚地のぬい始め.....	25
段ぬい.....	25
ジグザグぬい.....	26
たち目かがり.....	26
飾りぬい.....	27
まつりぬい(ブラインドステッチ).....	28,29
ボタンホールぬいのぬい方.....	30,31
ファスナー付け.....	32,33
伸縮強化ぬい.....	34
ボタン付け.....	35
ファゴティング.....	36
パッチワーク.....	36
ミシンのお手入れ.....	37
困ったときには.....	38
修理サービス要領.....	39
お客様相談室.....	39

◆ 付属品



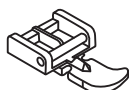
- 補助テーブルは、左方向にスライドさせると本体より取り外せます。
- 付属品は、補助テーブルの中に入っています。



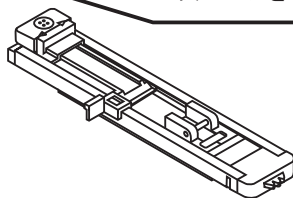
※補助テーブルについての詳しい説明は、次ページをご確認ください。



ジグザグ押え
(購入時ミシン本体についてます)



ファスナー押え



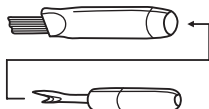
ボタンホール押え



ボタン付け押え



三角ドライバー



リッパー／ブラシ



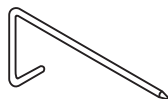
針パック
(HAx1 #14 3本)



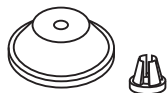
ボビン



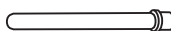
送りカバープレート



シームガイド



糸コマ押え (大小)
※糸コマが細い時には、
(小) を使用してください。



補助糸立棒



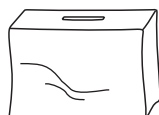
糸コマ座



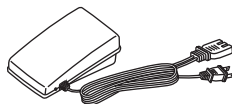
油さし



使用の手びき

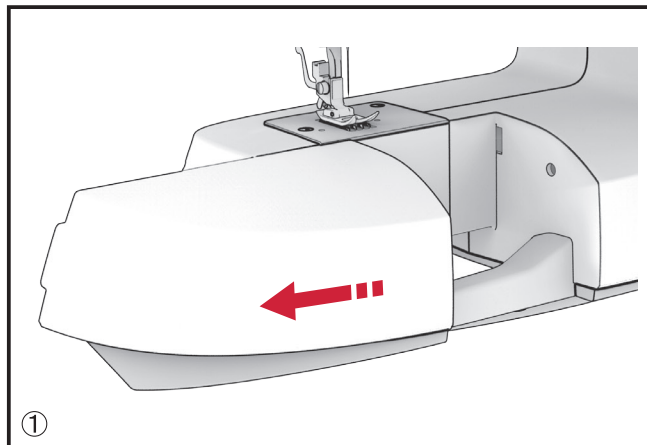


ソフトカバー



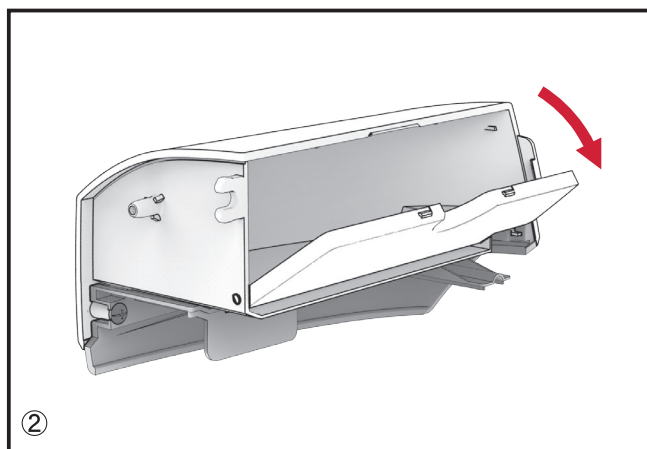
フットコントローラー
(電源コード 一体式)

◆ 補助テーブル



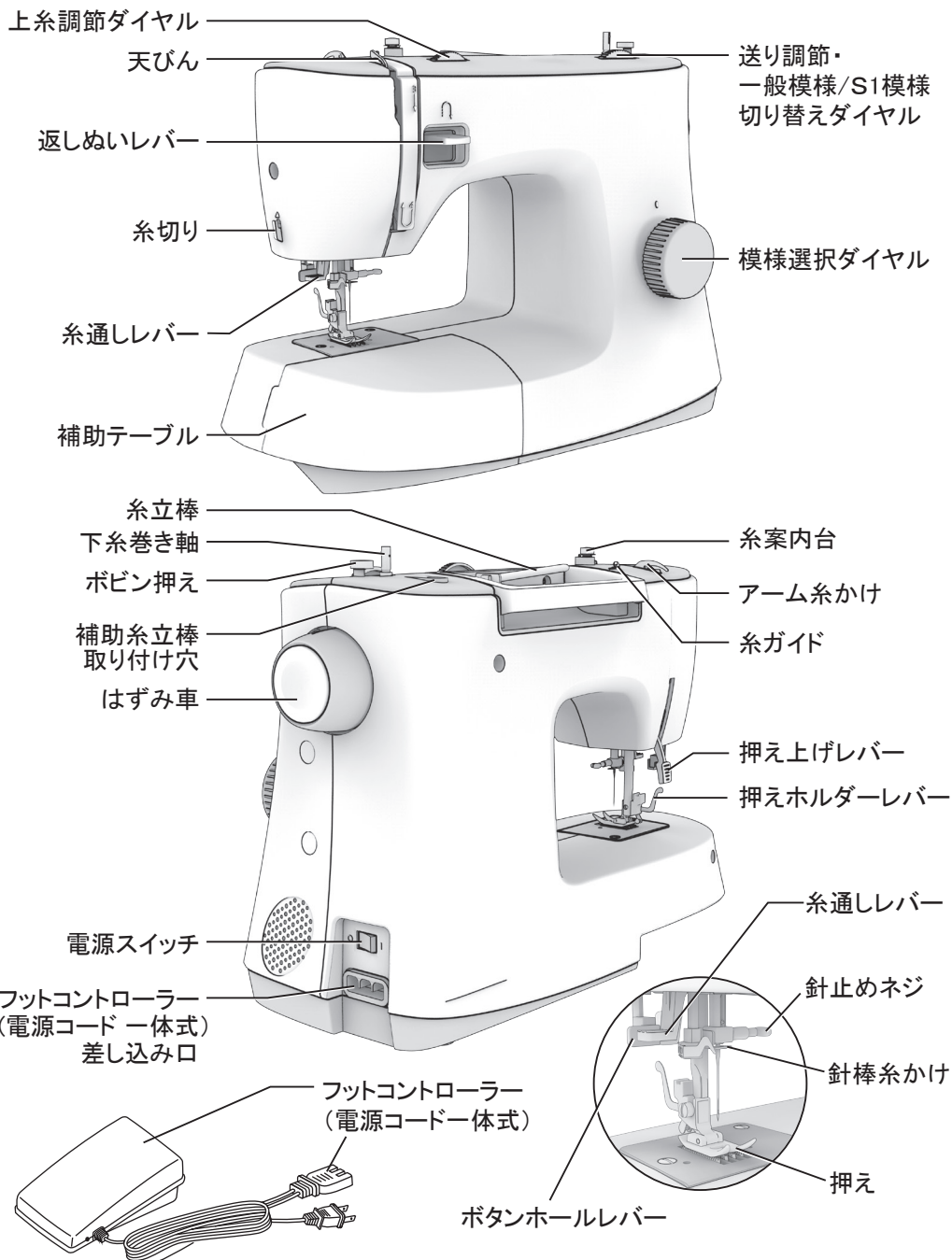
- ① 補助テーブルを外すと、袖口や、裾、袋物をぬうときに利用できるフリーアームになります。

補助テーブルはの左はしを持って、矢印の方向に引くと、外れます。



- ② 付属品の一部は、補助テーブルの中に入っています。取り外した補助テーブルの後ろにあるカバーは、手前に開きます。

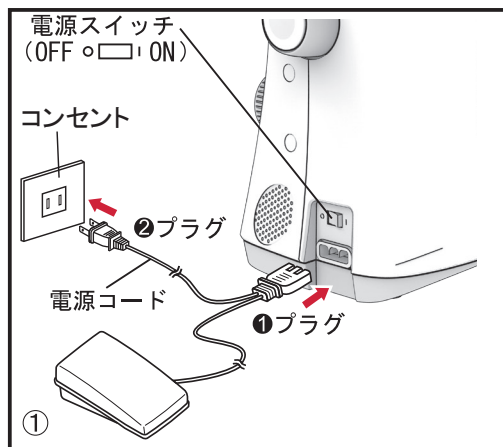
◆ 各部の名称



◆ 電源のつなぎ方と始動・停止

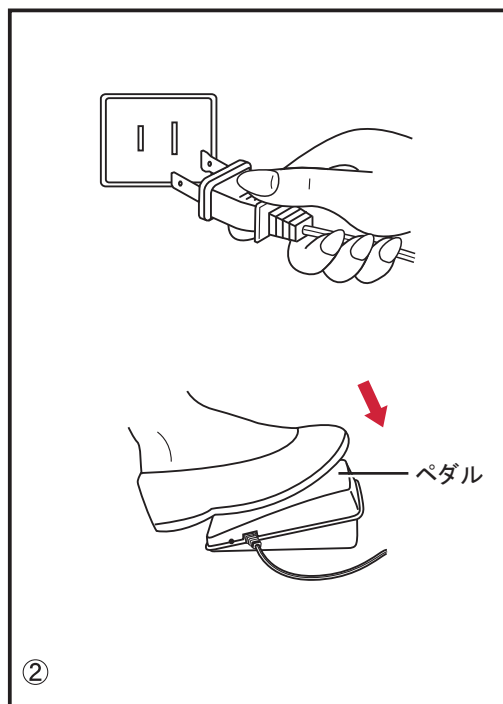
⚠ 警告：感電、火災を防ぐために

電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。



- ① 電源コードのプラグ①をマシンに、プラグ②を家庭用電源(100V50/60Hz)コンセントに差し込みます。

電源スイッチを入ると、照明ランプが点灯します。



- ② ご注意

マシンをご使用にならないときには、必ず電源プラグを抜いておいてください。

⚠ 警告：感電、火災を防ぐために

フットコントローラーを落としたり、座布団などの下に置いて使用しないでください。

マシンのスタート・ストップはフットコントローラーを使用します。

ペダルを踏むと、マシンがスタートします。

軽く踏むとゆっくりぬえます。
強く踏み込むほど、ぬうスピードが早くなります。

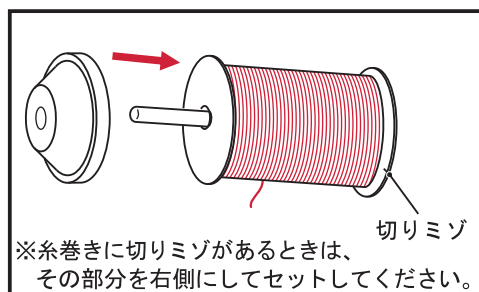
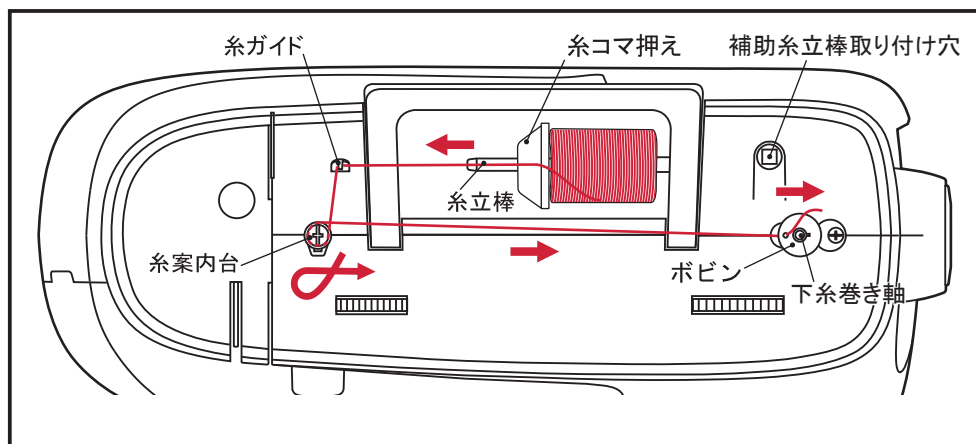
ペダルを放すとマシンがストップします。

◆ 下糸の巻き方

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

⚠ 注意 : ケガ防止のために

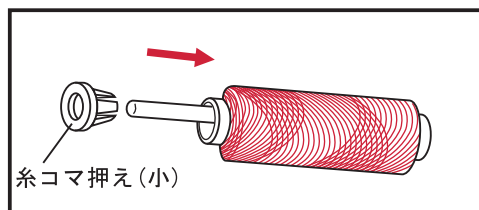
- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、ボビンにきれいに糸が巻けません。
- ボビンは必ず専用ボビン(高さ11.5mm プラスチック製)を使用してください。
専用ボビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。
- ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってからおこなってください。



糸コマをセットします

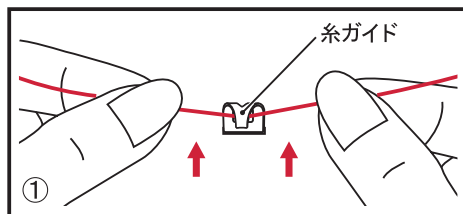
糸立棒を軽く持ち上げ、下側から手前に糸が出る向きにして糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付け、糸コマから少し離してセットします。



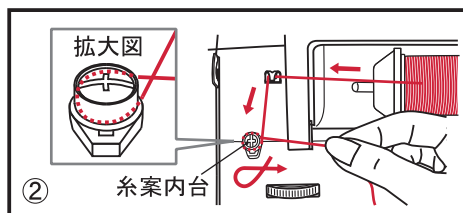
糸コマが細いときには、糸コマ押え(小)をご使用ください。

◆ 下系の巻き方



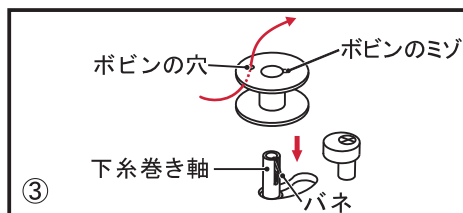
下系を巻きます

- ① 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの手前から奥に糸を通します。

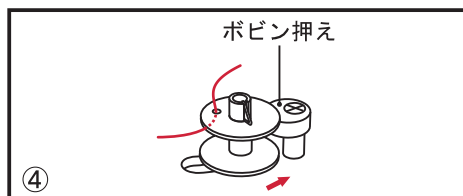


- ② かけた糸の糸はしをさらに引いて、糸案内台の下のすき間に、手前から後ろ（右回り）に糸をかけます。

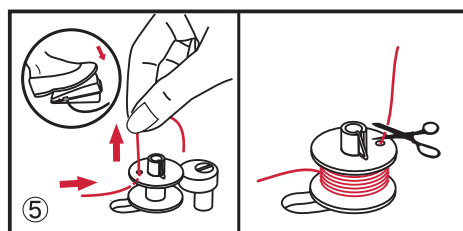
※正しく糸がかかっていると、糸を右に引いたとき、抵抗感があります。



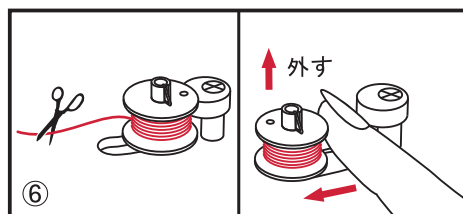
- ③ 糸案内台にかけた糸を右に引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。ボビンのミゾと下系巻き軸のバネの位置を合わせ、ボビンを下系巻き軸に差し込みます。



- ④ 下系巻き軸にセットしたボビンを右方向にスライドさせボビン押えに押し付けます。



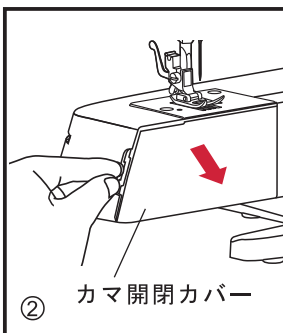
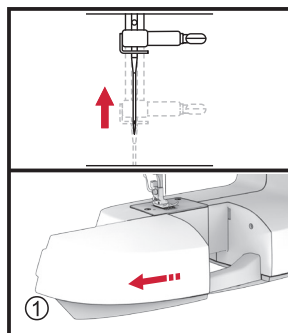
- ⑤ ボビンの表面の穴に入れた糸を、10cmほど引き出し、そのまま糸はしを手で真上の方向に持ちます。フットコントローラーを軽く踏み巻き始めます。少し糸を巻いたら、いったん止めて、ボビンの上に出ている余分な糸を切ります。その後、再度巻きます。



- ⑥ 巻き終わると、ボビンの回転がゆっくりになります。糸を切り、下系巻き軸を左に戻してからボビンを取り外してください。

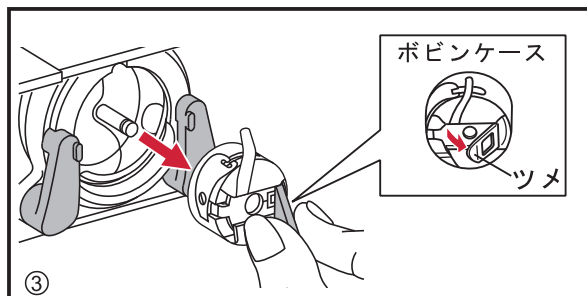
◆ ボビンとボビンケースのセット方法

⚠ 注意 : ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

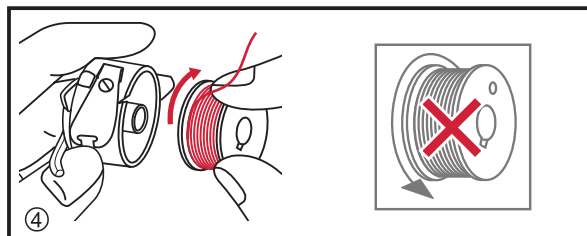


① はずみ車を回して、針を一番上に上げます。補助テーブルの左はしを持って、矢印方向に引き、補助テーブルを外します。

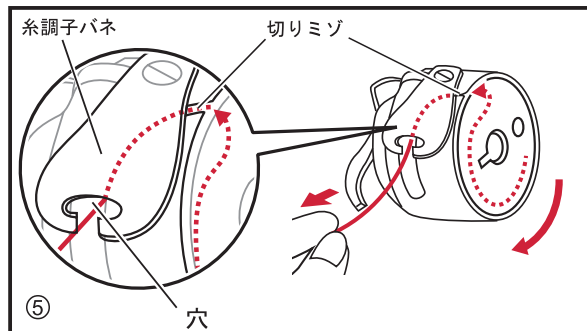
② カマ開閉カバーを開きます。



③ ボビンケースを取り外すときは、ツメの部分を手前に引っ張り、立ててから持ち、手前に引くようにします。

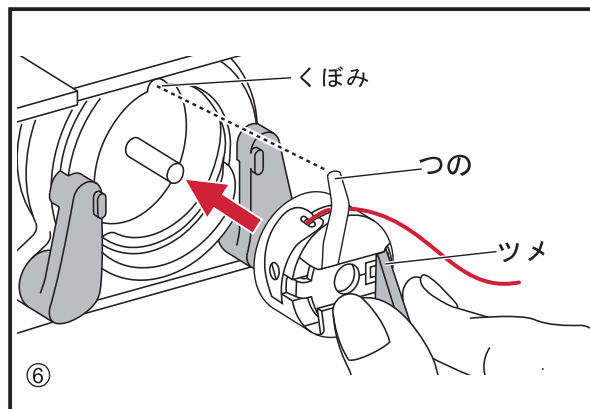


④ ボビンケースを片手で持ち、糸が時計回り(矢印の方向)になるようにボビンをセットします。



⑤ 糸はしを持ち、切りミゾから糸調子バネの下を通して穴から糸を 10 cm ほど引き出します。糸を引いたとき、ボビンが時計回りに動くかを確認します。

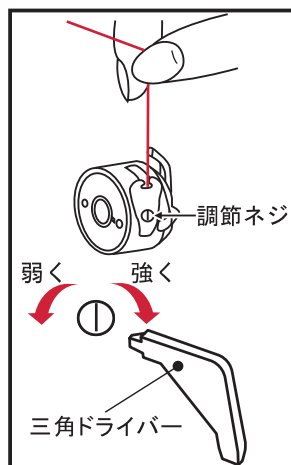
◆ ボビンとボビンケースのセット方法



⑥ ボビンケースのツメの部分を持ち、カマの中にセットします。

ボビンケースのつの部分が、外ガマの上にあるくぼみにはまるようにしてください。

◆ 下糸の調節方法

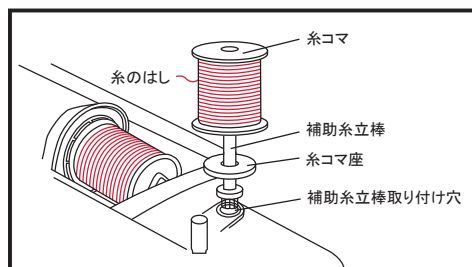


糸調子は「下糸調子を基準にして、上糸の調子をとる」のが原則です。

下糸の調節は、左図のようにボビンケースの穴から出る糸はしを持ち、下方向に振り下げた時にちょっと動いて止まる（目安は1～2cm 下がる）程度を基本とします。

試しぬいをして下糸が強い場合は、調節ネジを、三角ドライバーで左に回して糸調子を弱くし、下糸が弱い場合は右に回して強くします。

◆ 補助糸立棒の使い方



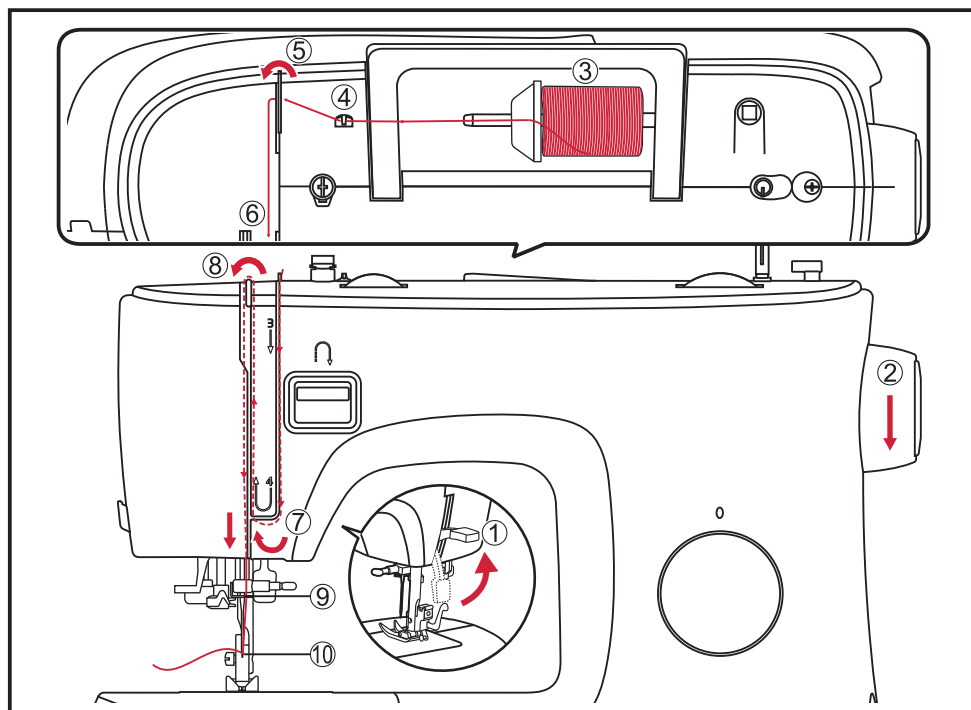
付属の補助糸立棒を使うと、マシンに付いている糸立棒に糸コマをセットした状態のまま、別の糸コマで糸巻きができます。

補助糸立棒を使う時は、左図のように、補助糸立棒に、糸コマ座を差し込んでから、補助糸立棒取り付け穴に差し込んでください。

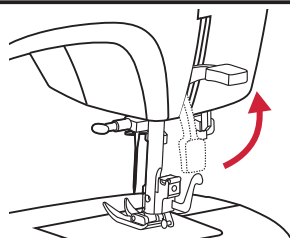
下糸巻きの方法は、糸コマから糸を引き出し、P10 ①～⑥と同じ手順でボビンに下糸を巻きます。

◆ 上糸のかけ方

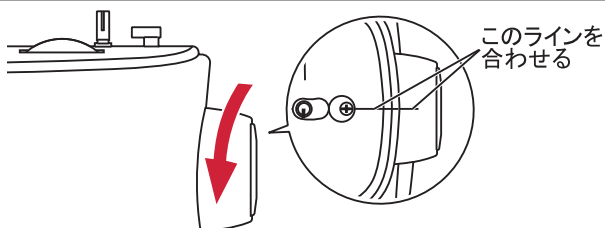
⚠ 注意 : ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



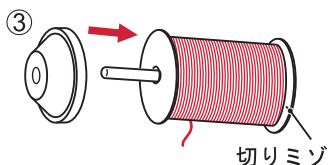
①
押え上げレバーを上げます。



②
はずみ車を手前に回して、
針上止点ラインを合わせます。



◆ 上糸のかけ方

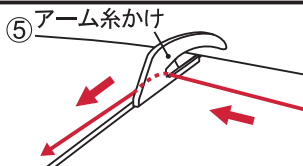


- ③ 糸コマをセットします。
下側から手前に糸が出る向きにして、糸コマを糸立棒にセットし、糸コマ押えで糸コマを押えます。

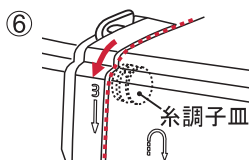
※糸コマが細い場合には、糸コマ押え(小)をご使用ください。



- ④ 糸ガイドに手前から奥に糸を通します。

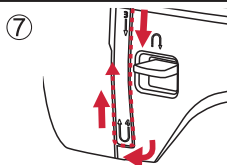


- ⑤ アーム糸かけに後ろから手前に糸をかけます。



- ⑥ 右側の糸道に糸を引きおろし、糸を両手で持ち、糸調子皿の間に通します。

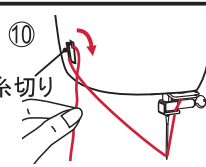
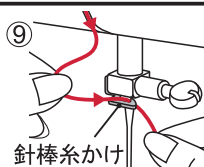
※糸調子皿はミシン内部の部品ですので外からは見えません。



- ⑦ 矢印にそって、右から左に糸をかけます。



- ⑧ 天びんの右から後ろへ糸を回し左前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。
そのまま糸道にそって糸を下に引きます。



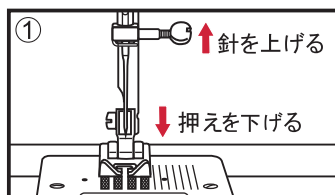
- ⑨ 針の上にある、針棒糸かけに右奥から糸をかけます。

- ⑩ 針穴は前から後ろに通します。
※糸通しの使い方は、次ページをご参照ください。
余分な糸は糸切りでカットします。

◆ 糸通しの使い方

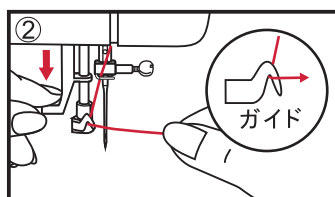
⚠ 注意：ケガ防止のために

- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。
- ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。
糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。

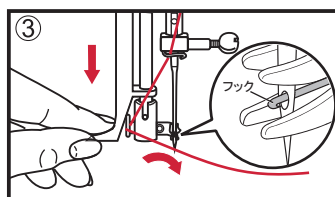


- ① 押え上げレバーを下げ、押えを下げます。
はずみ車を手前に回して、針上止点ラインを合わせ
針を上げます。(P13参照)

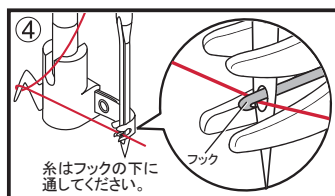
糸通しが使用できる針は、11番、14番、16番です。



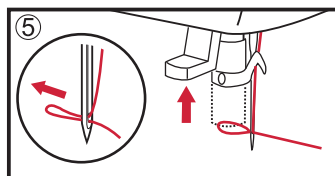
- ② 糸通しレバーを軽く下げ、糸を糸通しの左側にある
ガイドにかけてから、右に引いていきます。



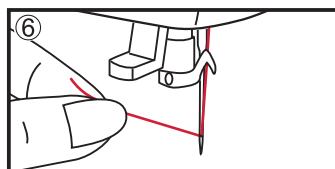
- ③ レバーを一番下までぎゅっと下げると、糸通しが回転し、
右側の針穴にフックが通ります。
針穴が正しい位置でないとフックが通りません。
必ず、①の通り、針上止点ラインを合わせて針位置を
合わせてください。針穴にフックが通らないまま無理に
押すと、フックが曲がり、針穴に通らなくなることがあります。



- ④ 糸を針に沿うように近づけ、フックの下に押し込みます。
フックの下に糸があることを確認してください。

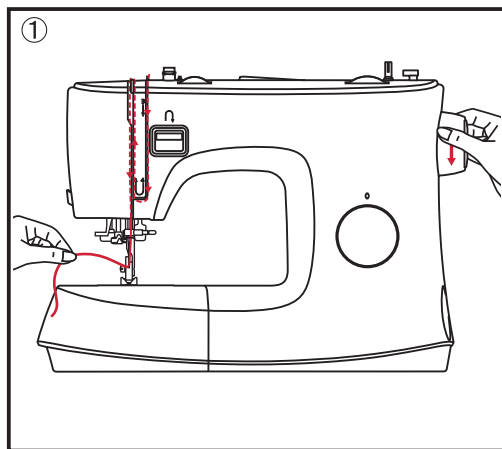


- ⑤ 糸はしを軽く持ったまま、レバーを放します。
※糸をギュッと持っているとう糸が通らないので、軽く持つ
ようにしてください。
糸が輪になって針穴に通ります。
糸通しレバーは元の位置に戻ります。

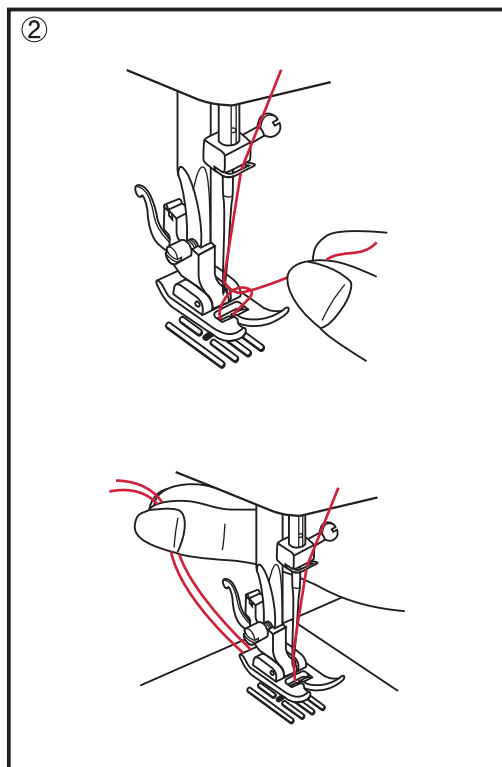


- ⑥ 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。
余った糸はミシン本体左側面にある糸切りで切っ
ておきます。

◆ 下糸の引き上げ方



- ① 押え上げレバーを上へ上げ、針に通した糸を左手で持ちます。
はずみ車を手前に回して、針をいったん針板の下に下ろし、そのまま回して、針を上へ上げます。



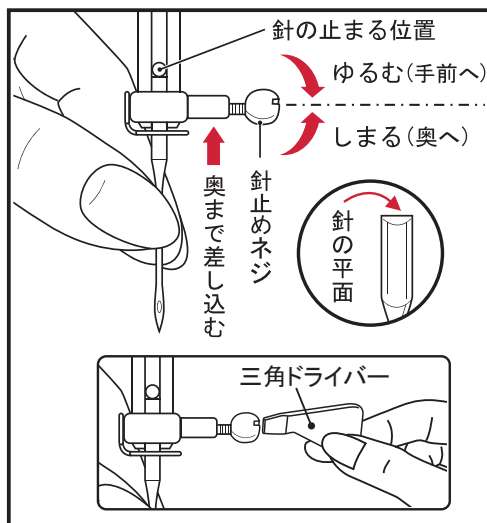
- ② 上糸を軽く引っ張ると、下糸が引き出されます。上糸と下糸をそろえ、押えの下から後ろ側に10cmくらい出しておきます。

◆ 針の取り外し方と取り付け方

⚠ 注意：ケガ防止のために

- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針(HA×1)をご使用ください。
- 曲がった針や針先がつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 針は消耗品になります。急にぬい目がおかしくなったり、ぬっているときに、今までと違う音がした場合などは、針が傷んでいます。すぐに交換してください。

針は、布地や糸に合わせて選びます。次ページの「針と糸と布地の組み合わせ」を参照してください。



電源を切ります。

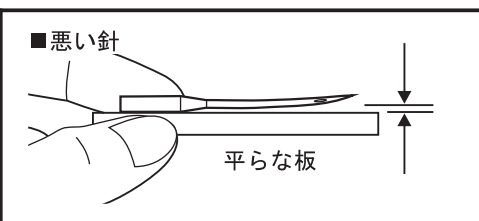
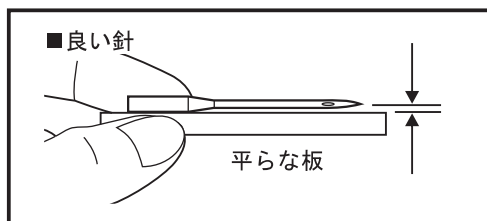
押え上げレバーを下に下げ、押えを下げます。

はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げます。

針止めネジを三角ドライバーで手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面(平らな面)を向こう側(針棒側)に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジを三角ドライバーで締め付けます。

取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



◆ 布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※必ずミシン専用の糸をご使用ください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガ ンジー、ボイル、絹布など。	スパン系糸 90 (ポリエステル) 綿 80~100 絹 60~80	9~11 番
普通地	ギンガム、リンネル、さら さ木綿、サテン、薄手コー デュロイ、別珍、一般服地 など。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 50~80 絹 50	11~14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デ ニム、キルティング、コー デュロイ、ジーンズなど。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 40~50 絹 50	14~16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、 スパンデックス、ジャージ など。	スパン系糸 60 (ポリエステル) レジロン系糸 50	11~14 番 ニット用針

- ・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ・ニット用針は伸縮性のある布地や目飛びしやすい布地に使用します。
- ・購入時は、14番の針がミシンに取り付けられています。

※綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。

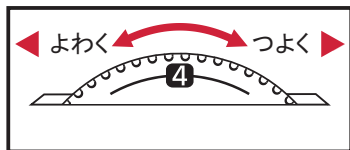
なるべく新しい糸をお使いください。（目安として製造より2年）

※ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸（キルト糸）などは使用しないでください。

<オススメ>

スパン系（素材：ポリエステル）の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、また長持ちします。

◆ 上糸調子の合わせ方



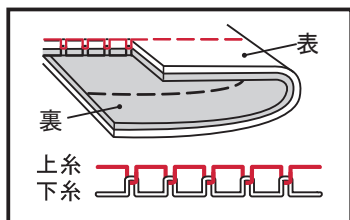
● 上糸調節ダイヤル

通常、上糸調節ダイヤルを「4」に合わせ、普通地用に使われる(#50～60)の糸でぬった場合に、糸調子が合うように設定されています。

糸調子は、上糸調節ダイヤルを回し調整します。

【糸調子を強くする】ダイヤルの数字を大きくする

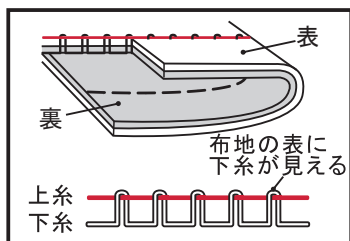
【糸調子を弱くする】ダイヤルの数字を小さくする



● 正しく調節されている場合

左記のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常なぬい目です。

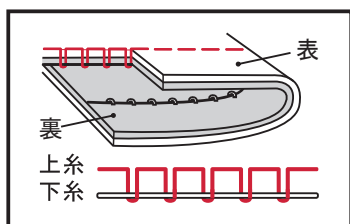
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするとときは、下図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。



● 上糸が強い場合

布の表の糸が1本になっている時は、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。

または、上糸の糸調子が強いので、糸調子ダイヤルの数字を小さくして糸調子を弱くしてください。

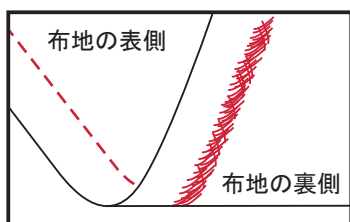


● 上糸が弱い場合

布の裏側の糸が1本になっている時は、上糸の糸調子が弱いので、糸調子ダイヤルの数字を大きくし、糸調子を強くしてください。

上糸調子を調整しても糸調子が合わない場合には、下糸調子を確認してください。(12ページ参照)

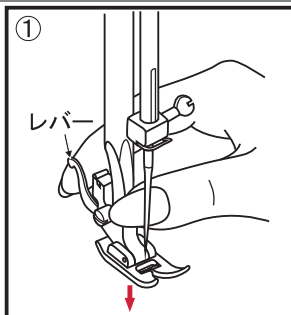
◆ 布地の裏側がタオル地のようになるのは



左図のように、布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のように糸が出ているのは、上糸の糸調子が弱い、上糸のかけ方が間違っています。または、押え上げレバーを下げたまま、上糸をかけると、この状態になります。

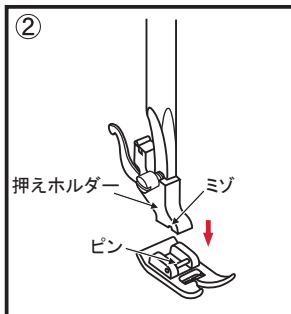
13,14ページをご覧の上、上糸を正しくかけ直してください。

◆ 押えの取り外し方と取り付け方



① 押えの取り外し方

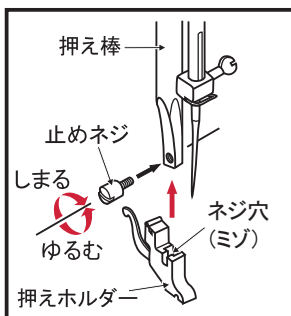
押え上げレバーを上げ、押えを上げます。
押えホルダーのレバーを手前に押すと、押えが外れます。



② 押えの取り付け方

交換したい押えのピン部分を押えホルダーのミゾの真下に置きます。
静かに押え上げレバーを下ろし、押えのピンを押えホルダーのミゾにいれます。

◆ 押えホルダーの取り外し方と取り付け方



・押えホルダーの取り外し方

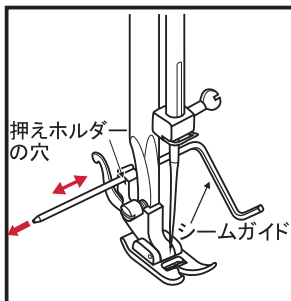
はずみ車を回して、針を上げます。押え上げレバーを上げ、押えを上げます。押えを取り外します。三角ドライバーを使い、止めネジを奥に回しゆるめて、押えホルダーを取り外します。

・押えホルダーの取り付け方

押えホルダーのネジ穴と、押え棒のネジ穴の高さを合わせ止めネジを取り付けます。止めネジは、三角ドライバーで手前に回して締め付けます。

※押えの交換は、押えホルダーを取り付けたまま行います。
取り外す必要はありません。

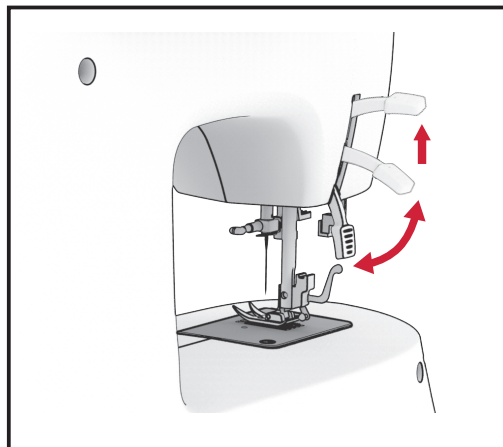
◆ シームガイドの取り付け方



・シームガイドの取り付け方

シームガイドは、取り付けることで、平行のステッチや均一なステッチをぬうためのガイドになります。
押えホルダー後ろ上部にある穴に右側から差し込み取り付けます。
ガイドを左右させることで、ガイドとなるステッチ幅の変更ができます。

◆ 押え上げレバー

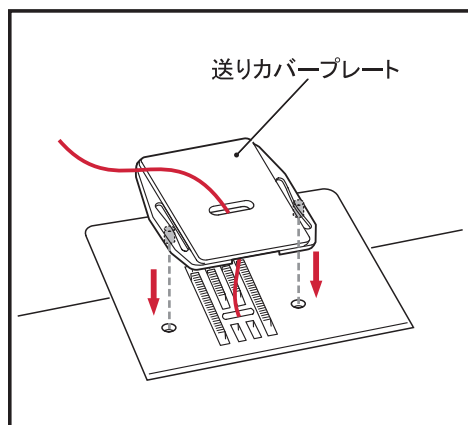


布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上に上げることができます。

※このとき、レバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

◆ 送りカバープレートの使い方



フリーハンドで刺しゅうをぬう場合や、ボタン付けをする場合は、送り歯に、送りカバープレートを取り付けます。

送りカバープレートを取り付けている間は、送り歯が効かなくなります。布を送りませんので、布を自由に動かします。

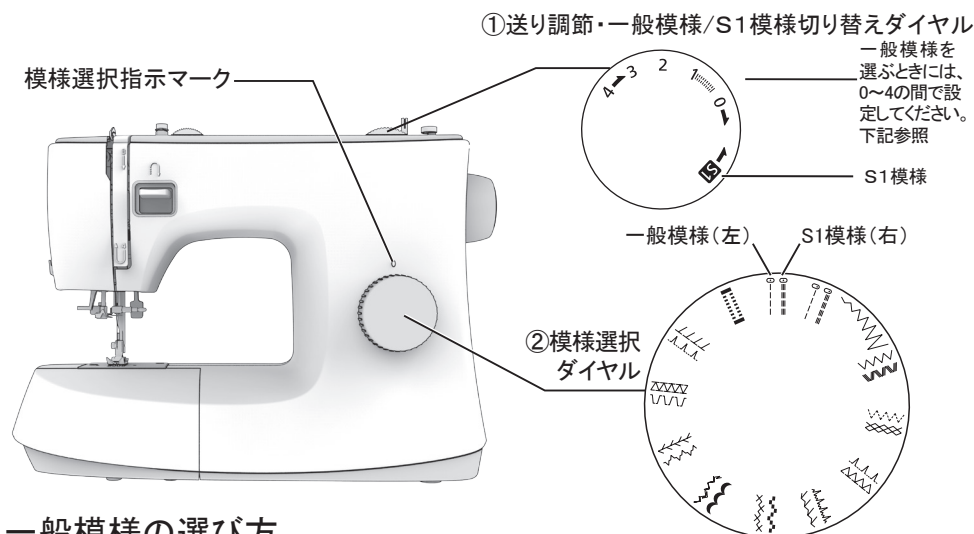
まず、下糸を引き上げた後に、送りカバープレートの2ヶ所の突起を、ミシン本体の穴に入れて取り付けてください。送りカバープレートの針穴から糸を引き出しておきます。

通常のソーイングでは、使用しません。必ず送りカバープレートを取り外してください。

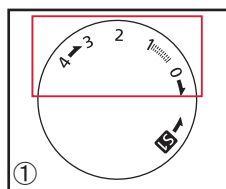
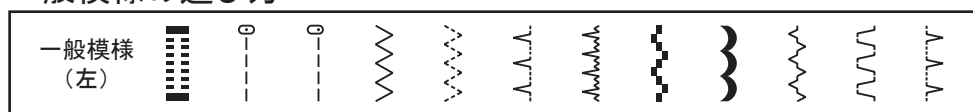
◆ 模様を選び方

⚠ 注意: ケガ防止のために

送り調節・一般模様/S1模様切り替えダイヤルや、模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。



一般模様の選び方



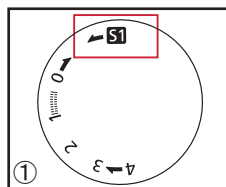
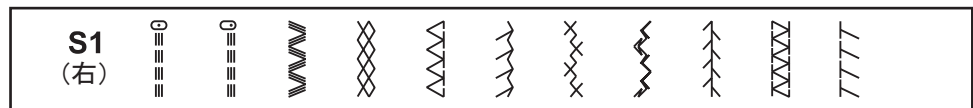
①送り調節・一般模様/S1模様切り替えダイヤルを、0～4の数字の間に設定します。詳しくは、次ページをご参照ください。

②模様選択ダイヤルで、一般模様(左)から、ぬいたい模様を選択します。

※ボタンホールは、一般模様になります。

ボタンホールの送り設定については、30ページをご確認ください。

S1模様の選び方



①送り調節・一般模様/S1模様切り替えダイヤルで、S1に切り替えます。

②模様選択ダイヤルで、希望の模様を選択してください。

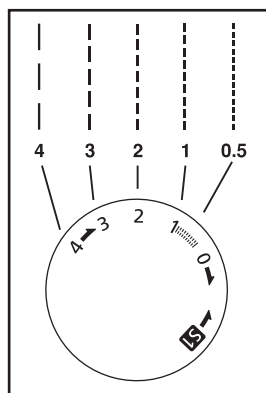
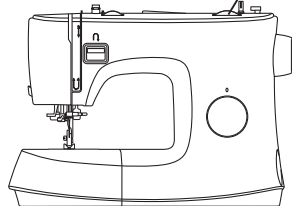
※S1(右)模様は、ぬい目の長さ・ふり幅の変更はできません。

◆ 一般模様の送りの長さ・ふり幅の調整方法

・送りの長さの調整方法

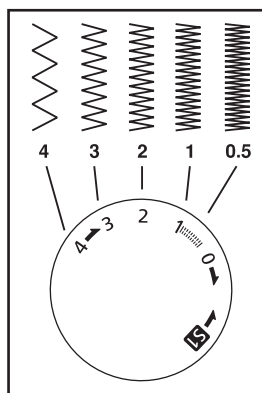
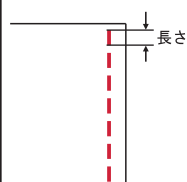
送り調節・一般模様/S1模様切り替えダイヤル

※ダイヤルを「0」にセットすると、布は動かず、同じ場所を針が刺します。



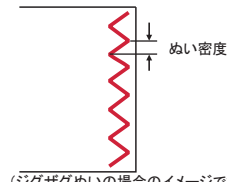
直線ぬいの場合

送り調節・一般模様/
S1模様切り替えダイ
ヤルで、ぬい目の長
さを0.5～4mmで調整
できます。



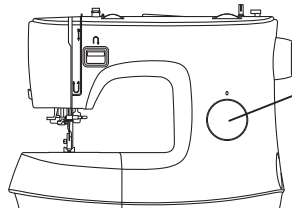
直線以外の模様の場合

送り調節・一般模様/
S1模様切り替えダイ
ヤルで、ぬい密度を
0.5～4mmで調整で
きます。

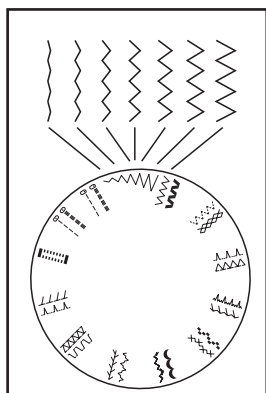


(ジグザグぬいの場合のイメージです。)

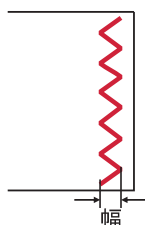
・ふり幅の調整方法



模様選択ダイヤル



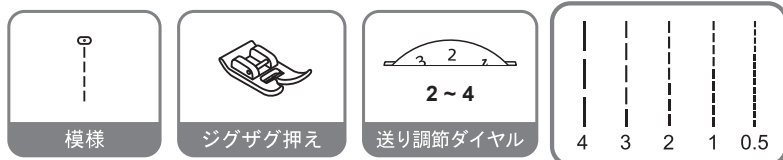
ジグザグ模様  は、模様選択ダイヤルの、“  ”で、
ふり幅が変更できます。



◆ 直線ぬい

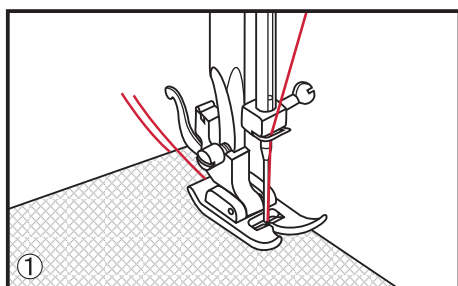
⚠ 注意：ケガ防止のために

- 針先には十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって送られますので、無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。

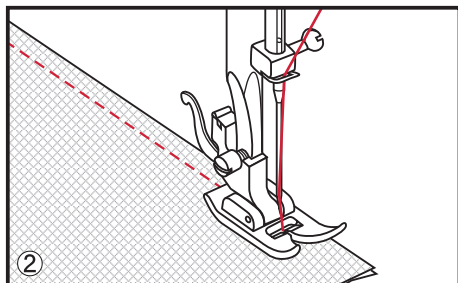


ぬい目の長さの調節は、送り調節ダイヤルで行います。(22～23ページ参照)
 普通は目盛の2～4が標準ですが、布地の厚さや糸の太さ、ぬう目的などで変わります。
 試しぬいをして調節してください。

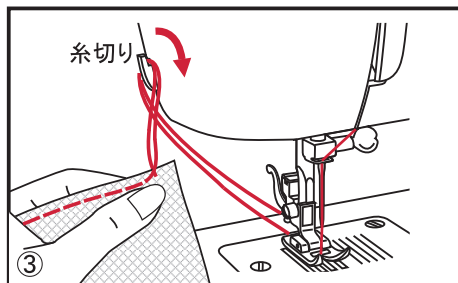
※送り調節ダイヤルを「0」にセットすると、布は動かず、同じ場所を針が刺します。



- ① 布地を押えの下に置き、ぬい始める位置ではずみ車を手前に回し、針を刺してから、押え上げレバーを下げ、押えを下ろします。フットコントローラーを足で踏み、スタートさせます。
 布地に軽く手をそえます。ぬっている間は布地を無理に引っ張らないようにします。

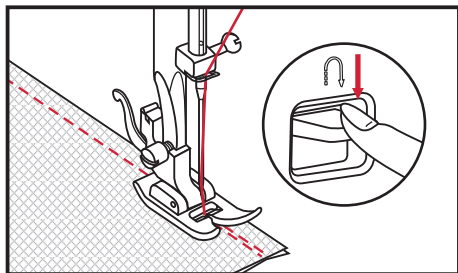


- ② ぬい終わったらフットコントローラーから足を放して、ストップします。
 はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げます。



- ③ 押えを上へ上げ、布地を取り出します。
 ミシン本体左側面にある糸切りに糸をかけて手前に引くと糸が切れます。

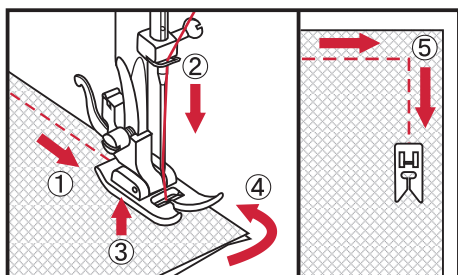
◆ 返しぬい



フットコントローラーを踏みながら、返しぬいレバーを押し下げます。押し下げている間は、返しぬいができます。レバーを放すと前進に戻ります。

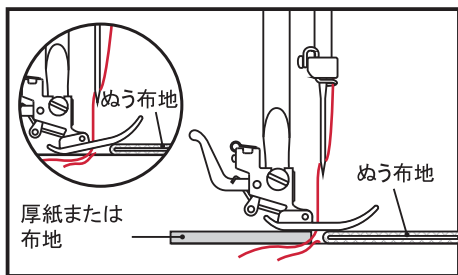
ぬい始めとぬい終わりに3～5針返しぬいをしておくと、ぬい目がほころびず、丈夫になります。

◆ ぬい方向のかえ方



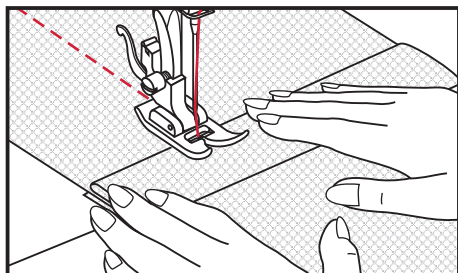
- ① 布地の角まで来たら、フットコントローラーから足を放します。
- ② はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。
- ③ 押え上げレバーを上げ押えを上げます。
- ④ 針を軸にして布地を回し、布地をぬい方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、ぬい始めます。

◆ 厚地のぬい始め



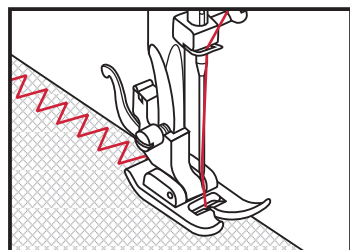
厚地の布はしからぬい始めるときに押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがい、段差をなくしてからぬい始めます。

◆ 段ぬい



布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

◆ ジグザグぬい

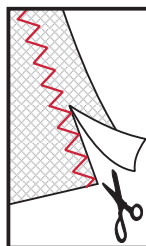
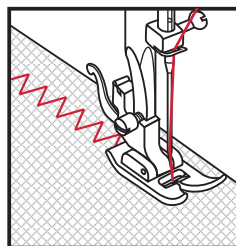
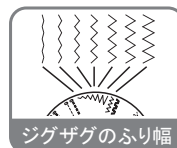


ジグザグぬいの糸調子は、直線ぬいに比べ、上糸をやや弱めにし、裏に上糸がでるくらいが適当です。

送り調節ダイヤルの目盛を「0」に近づけるにしたがい、密着したジグザグぬいになります。
布に応じて送り調節ダイヤルで、ぬい目の長さ（密度）を調節してください。
ジグザグのふり幅は、模様選択ダイヤルの ” ~~~~~ ” で調整します。

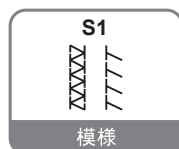
調節方法は23ページをご確認ください。

◆ たち目かがり



ぬい代に少し余分をとってぬい、ぬった後に、余分なところをぬい目の近くで切り落としてください。

送り調節ダイヤルの目盛を「0」に近づけるにしたがい、密着したジグザグぬいになります。
布に応じて送り調節ダイヤルで、ぬい目の長さ（密度）を調節してください。ジグザグのふり幅は、模様選択ダイヤルの ” ~~~~~ ” で調整します。
調節方法は23ページをご確認ください。



中厚ものの布地のたち目かがりを行う場合、上記の模様が有効です。
※これらの模様は、ぬい目の長さ（密度）や、ふり幅は変更できません。

ジグザグぬいの場合と同じように、ぬい代に少し余分をとってぬい、ぬった後に、余分なところをぬい目の近くで切り落としてください。

◆ 飾りぬい



模様

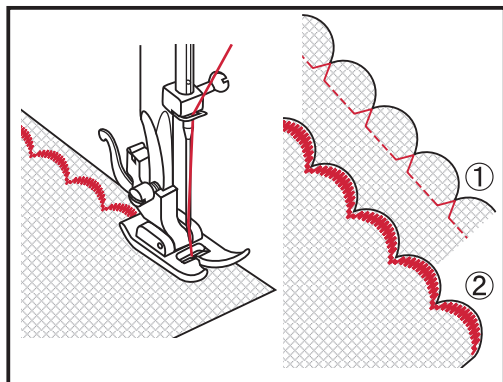


ジグザグ押え



0.5 ~ 1

送り調節ダイヤル



① シェルタック

布はしの飾りぬいに使います。薄手の伸縮性のある布に適しています。

模様選択ダイヤルは一般模様の”  ”にセットします。

針が右振れしたときに、生地のはしにくるように布地をセットしてください。

② スカラップぬい

布はしに沿って、デリケートな仕上げをしたいときに使います。

模様選択ダイヤルは一般模様の”  ”にセットします。

布の表から布はしを1cmくらい残してぬいます。

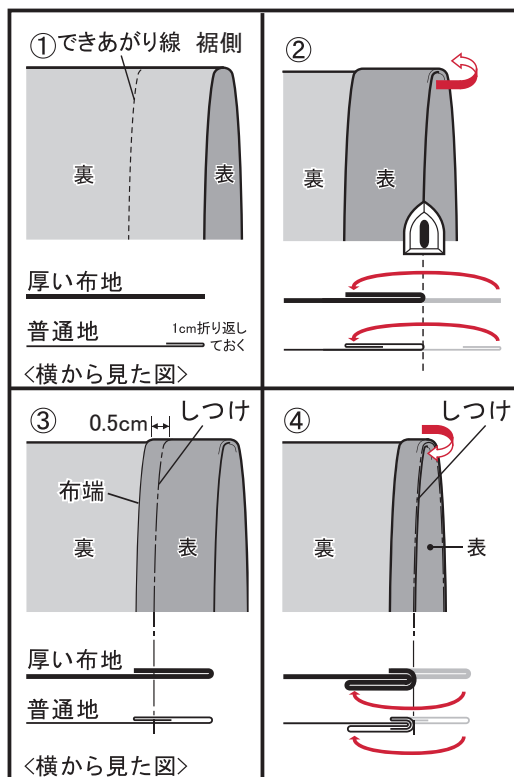
糸を切らないように、ぬい目の外側の布をぬい目にそって切り落とします。

◆ まつりぬい(ブラインドステッチ)

ズボンやスカートの裾、袖口のまつりに使います。

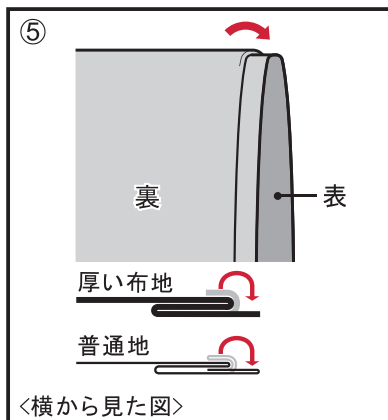


スカートやズボンの裾は、次の手順でまつります。

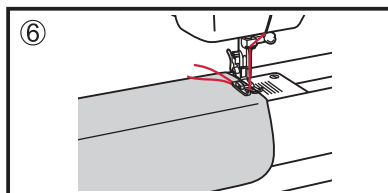


- ① 裾上げるスカートやズボンを裏返します。
- ② できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。
- ③ 布はしから約0.5cmのところにチャコペンなどで印を付け、しつけをします。
- ④ しつけをしたところから、内側へ折り込みます。

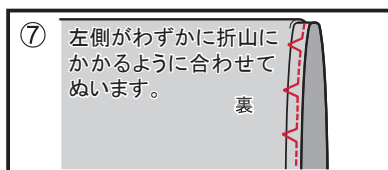
◆ まつりぬい(ブラインドステッチ)



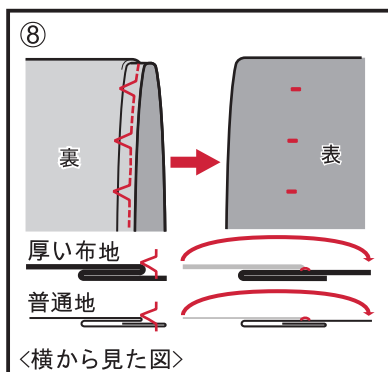
⑤ 布はしを開きます。



⑥ ミシンをフリーアームにし、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認してください。



⑦ はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。その時に針が折山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。

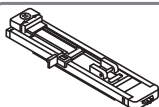


⑧ しつけをほどき、布地を表に返します。

◆ ボタンホールのはき方



模様



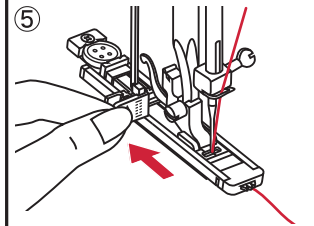
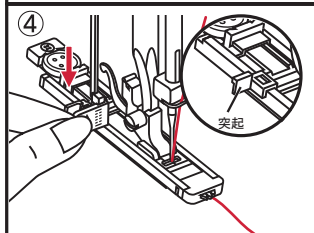
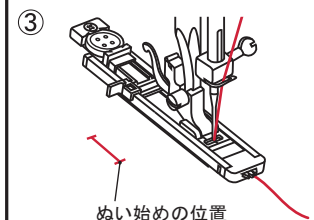
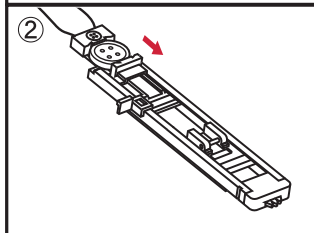
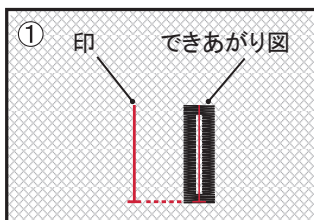
ボタンホール押え



0.5 ~ 1

送り調節ダイヤル

こまかい あらい



● 必ずぬうものと同じ生地(残り布)で試しぬいをしてからぬってください。

① ボタンホールをつくる位置にチャコペンなどで印を付けてください。

「ボタンの直径+厚み」が3cmまでのボタンホールが作れます。

送り調節ダイヤルを“”の間に合わせてぬいます。

布地によって、ぬい目の長さの調節(0.5~1)が必要です。

② ボタンホール押えの後ろを開き、開いた部分にボタンを乗せ、はさみます。

③ ミシンと押えの間に布を入れ、ぬい始めの位置に針を刺して、押えを下げてください。

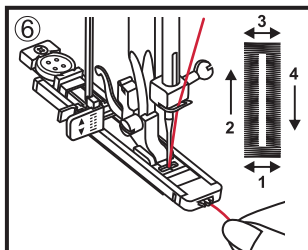
糸は押えの下に通し、手前を出しておいてください。

④ ボタンホールレバーを図の突起部の手前に、止まるまで下げます。

⑤ ボタンホールレバーを後ろに止まるまで軽く押します。

※ボタンホールをつくる度に、スタートの前に必ず後ろへ押してください。

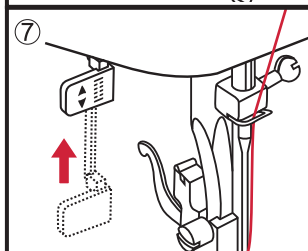
◆ ボタンホールのぬい方



- ⑥ 上糸を軽く持ち、ぬい始めてください。ぬい始めたら糸から手を放してください。ぬい終わったらミシンを止めます。

手は布地に軽くそえてください。

ボタンホールは、図中1～4の順序で自動的にぬいます。



- ⑦ ぬい終わったら、ボタンホールレバーを引き上げて、元の位置に戻します。



- ⑧ 付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。

※ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺してから開きます。

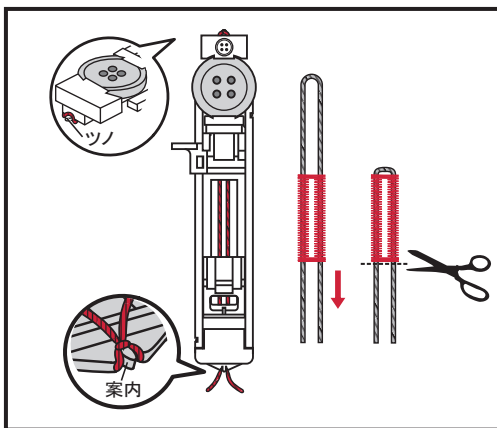
※まち針は付属品ではありません。

リッパー／ブラシ



⚠ 注意：ケガ防止のために

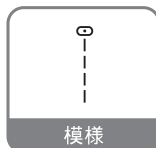
リッパーで穴を開けるとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。
すべったときにケガをする恐れがあります。



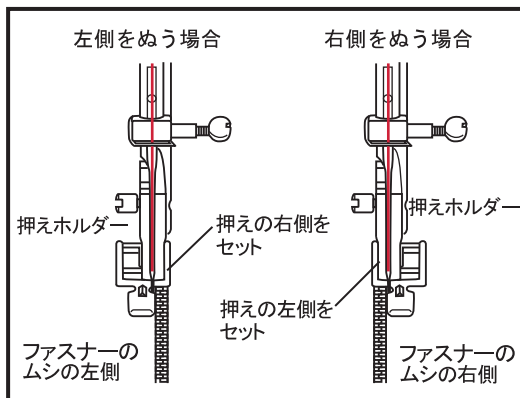
< 芯入りボタンホールの作り方 >

- 伸びる布地にボタンホールをぬうときは、ボタンホールに芯ひもを入れると丈夫になります。
- 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるツノにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内にはさみ結びます。
- 通常のボタンホールと同じ手順でボタンホールを作ります。
- ボタンホールができれば、左側の芯ひもを引いてたるみをなくし、余分な芯ひもを切ります。

◆ ファスナー付け



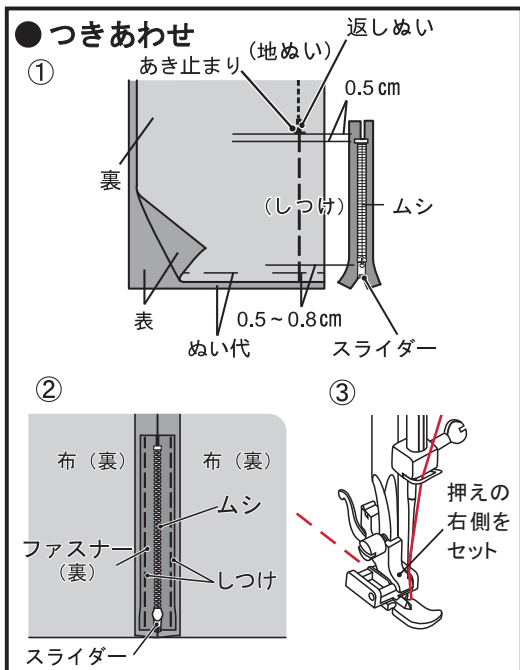
ファスナー押えをご使用の際は、必ず一般模様の直線(中基線)をご使用ください。
他の模様では、針が押えに当たって折れるなどして危険です。



ファスナー押えは、ぬう側を合わせて、
左右どちらかにセットします。

ファスナーのムシの左側をぬうときは、
押えの右側のミゾを押えホルダーに
セットしてください。
ファスナーのムシの右側をぬうときは、
押えの左側のミゾを押えホルダーに
セットしてください。

ファスナーの付け方には、
「つきあわせ」と「脇あき」があります。



● つきあわせ

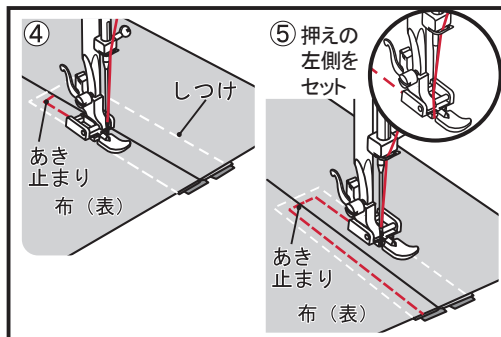
① 中表にして布を合わせ、図のようにあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

※ 数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

② ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけします。しつけはほどきやすいよう粗めでぬいます。

③ ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。
(ファスナーのムシの左側をぬう場合)

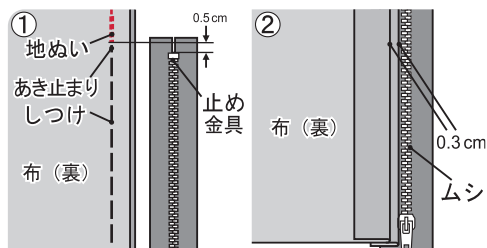
◆ ファスナー付け



④ ファスナー左側を、布の合わせ目から0.7~1 cm 離して、あき止まりからぬいます。

⑤ ファスナー押えのミゾを左側にセットし、あき止まりの右側もぬい、しつけをとります。右側も同様に布の合わせ目から0.7~1 cm 離してぬいます。

● 脇あき

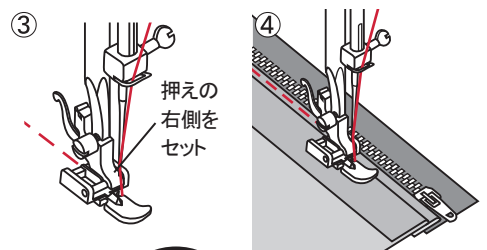


● 脇あき

① 中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

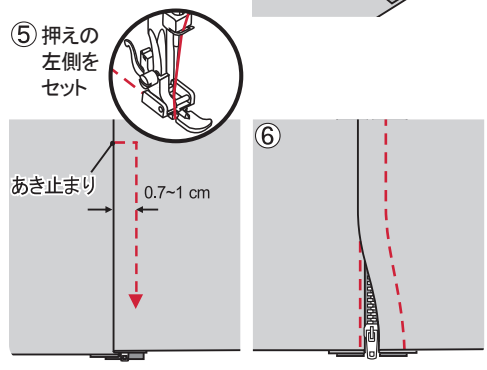
② ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3 cm 出して折り目を付け、折り山をムシに合わせます。

※数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。



③ ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。(ファスナーのムシの左側をぬう場合)

④ ファスナーの左側を、あき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシに乗らないようにしてぬいます。

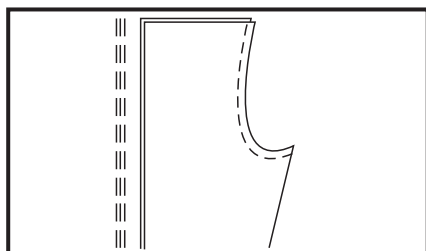


⑤ ファスナー押えのミゾを左側にセットし、上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側の布の折り目から、0.7~1 cm 離してぬいます。

⑥ スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

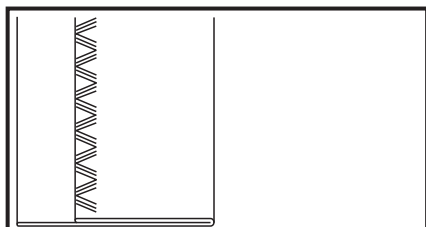
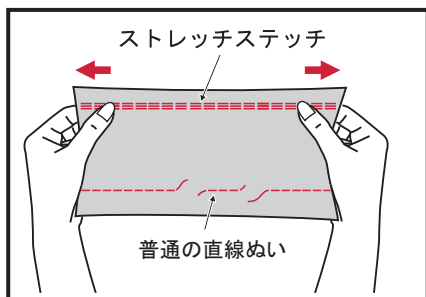
◆ 伸縮強化ぬい

直線とジグザグの三重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分や、デニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



- トリプルステッチ(三重ぬい)
中基線・右基線

※ぬい目の長は調節できません。



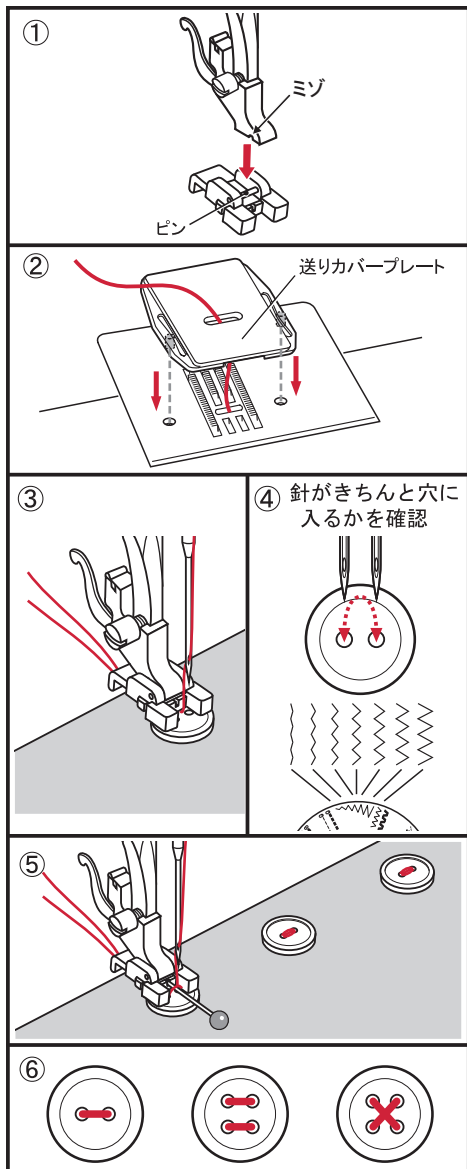
- 三重ジグザグぬい

※ぬい目の長さやふり幅は調節できません。

◆ ボタン付け



送り調節ダイヤルは「0」にします。



① ボタンつけ押えに交換します。

② 下糸を引き上げてから、送り歯に送りカバープレートを取り付けます。(21ページ参照)

引き上げた糸をカバーの針穴から必ず引き出しておきます。

③ はずみ車を手前に回して、針が左に来たときに、ボタンの左の穴に針が下りるように合わせ押えを上げます。

④ ボタンの左右の穴の中心に針が落ちるように模様選択ダイヤルのジグザグ幅を調節してから、ぬい始めます。10針くらいぬったらストップします。

⑤ 付けるボタンに余裕をもたせたいときは、ボタンの上にまち針を乗せてぬいます。
※まち針は付属品ではありません。

⑥ 4つの穴を持ったボタンについては、先に2つの穴をぬい、それから残りの2つの穴をぬいます。

◆ ファゴティング

S1

模様

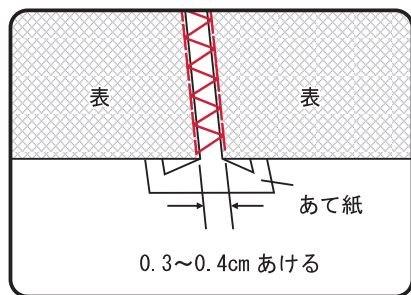


ジグザグ押え



S1

送り調節ダイヤル



- ① 布はしと布はしの間隔を0.3~0.4cmあけて、裏にあて紙をします。
- ② 布の表から、間隔の中央を中心にしてぬいます。
- ③ あて紙を取ります。

◆ パッチワーク



模様

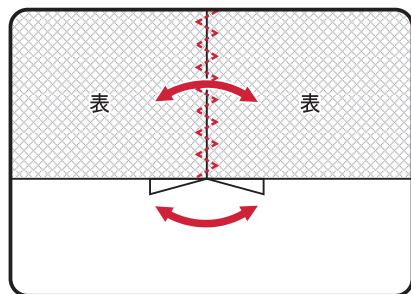


ジグザグ押え



0.5 ~ 1.5

送り調節ダイヤル



- 布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。

布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

◆ ミシンのお手入れ

⚠ 注意：ケガ防止のために

部品の交換やお掃除の際には、必ずスイッチをオフにし、ミシンの電源プラグを抜いてください。

● お手入れ前の準備

1. 押え上げレバーを上げ、押えを上げます。押えと、押えホルダーを取り外します。(20ページ参照)
2. はずみ車を回し、針を一番高い位置に上げ、針を取り外します。(17ページ参照)

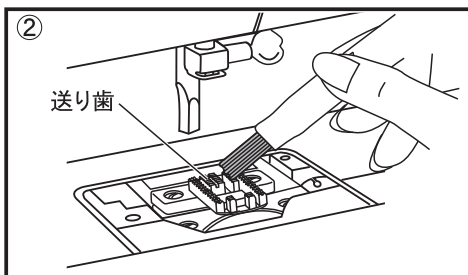
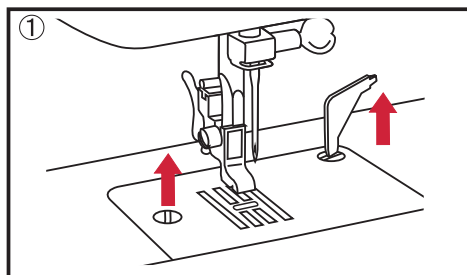
● お手入れ方法

① 針板の取り外し方

付属品の三角ドライバーで針板の2本のネジをゆるめ、針板を取り外します。

② 送り歯の掃除

送り歯のゴミを、ブラシで掃除します。

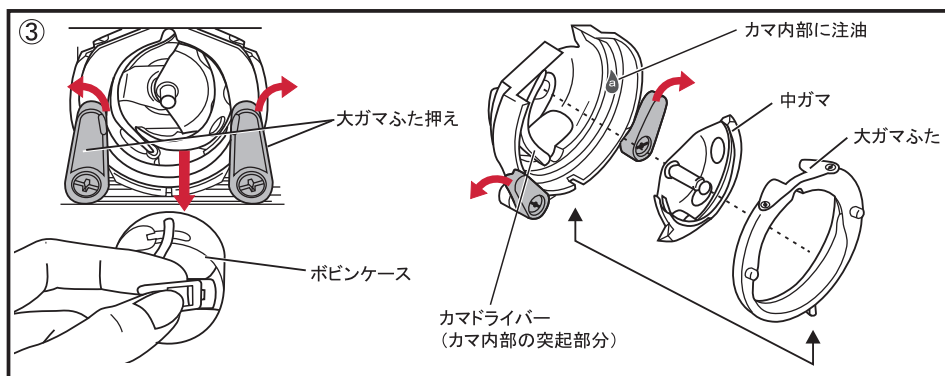


③ カマの掃除

補助テーブルを取り外し、フリーアームの前にあるカマ開閉カバーを開きます。(11ページ参照) ボビンケースを外し、大ガマふた押えを左右に開き、大ガマふたと中ガマを外します。ブラシで中ガマと、カマの内部を掃除し、布でふきとります。

図のa部分に油をさしてください。油は一滴で十分です。

はずみ車を回転させ、カマドライバー(突起部分)を左側にした状態で、図のように、中ガマ、大ガマふたの順に取り付け、大ガマふた押えで固定します。針板を取り付け、ネジで固定します。



⚠ 注意：

- ・針が下の位置にある場合には、中ガマを取り外すことはできません。
- ・注油後は必ずはずみ車を回し、針がスムーズに上下するかを確かめたあと、試しぬいをしてください。
- ・送り歯やカマの掃除と注油は定期的に行ってください。汚れや油切れはミシンの不調の原因となります。

◆ 困ったときには

問題	原因	解決方法
上糸が切れる	・ミシンの糸かけが間違っているとき。 ・上糸調子が強すぎるとき。 ・針に対して糸が太すぎるとき。 ・針の付け方が間違っているとき。 ・糸立棒に糸がからまっているとき。 ・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	・上下糸をかけ直してください。 ・上糸調子を弱くしてください。(小さい数字) ・太い針に交換してください。 ・平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。 ・糸コマを外し、糸立棒にからまった糸を外してください。 ・針を交換してください。
ぬい目が飛ぶ	・ご使用の糸が古いとき。 ・ボビンに糸が正しく巻かれていないとき。 ・糸かけが間違っているとき。 ・針の取り付け方が間違っているとき。	・新しい糸をお使いください。 ・均等に綺麗に糸を巻いたボビンを使用してください。 ・上下糸をかけ直してください。 ・平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。
針が折れる	・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 ・針の付け方が間違っているとき。	・新しい針に交換してください。 ・平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。
ぬえない	・糸かけが間違っているとき。 ・針のサイズが布に合わないとき。 ・目的の違う押えを使っているとき。	・糸かけを確認してください。使用の手びきのイラストをご参照の上、上下糸をかけ直してください。 ・糸と布に合う針に交換してください。 ・正しい押えに交換してください。
ぬい目にギャザーが寄ったり、つれたりする	・針、布、糸の組み合わせが合っていないとき。 ・糸調子が合っていないとき。 ・布に対して針が太すぎるとき。 ・ぬい目の長い直線を選択しているとき。 ・糸調子が強過ぎるとき。	・糸と布に合う針に交換してください。 ・糸調子を正しく合わせてください。 ・細めの針に交換してください。 ・直線のぬい目の長さを変更してください。 ・上糸調子をゆるめてください。(小さい数字)
ステッチが均等でない、送りが均等でない	・ご使用の糸が古いとき。 ・下糸のかけ方が間違っているとき。 ・布が引っ張られているとき。	・新しい糸をお使いください。 ・ボビンケースを取り外して、糸かけをし直してください。 ・ぬいながら布を引っ張らず、ミシンの送りに任せてください。
ミシンの音が高い	・ミシンに注油が必要なとき。 ・カムまたは針棒に汚れやオイルが付着しているとき。 ・ミシン用オイルを使用していないとき。	・説明書にしたがって注油してください。 ・説明書にしたがってカムおよび送り歯を掃除してください。 ・注油にはミシン用のオイルをお使いください。
ミシンが動かない	・電源をいれていないとき。 ・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 ・糸がカマに絡まっているとき。	・電源コードをコンセントにさし、電源を入れてください。 ・新しい針に交換してください。 ・上糸およびボビンケースを取り外して、はずみ車を手で前後に回し、絡まった糸を外して下さい。その後、説明書にしたがって掃除、注油をしてください。

◆ 修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から3年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
3. 消耗部品（ミシン針など）や、付属品の損傷および消耗は保証期間においても、お客様の負担となります。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理部品の供給期間中は、購入店と通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費または送料、および技術料の合計額となります。

◆ お客様相談室

ミシンの使い方、また修理についてのご相談は、以下の窓口までお問い合わせください。

NECCHI ネッキ

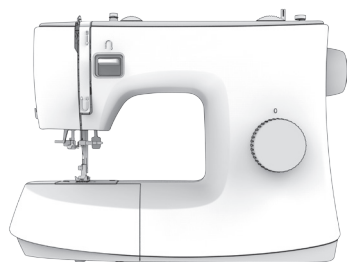
国内総代理店

西日本ミシン販売 お客様相談室

〒820-0011 福岡県飯塚市柏の森601-5

お問い合わせ先 電話 (0948) 25-0400

受付時間 平日10:00～12:00 13:00～17:00

This image shows a full page of white paper with horizontal dotted lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a guide for handwriting or typing. There are no margins, text, or other markings on the page.

NECCHI

【国内総代理店：西日本ミシン販売株式会社】

021K3Q0401(JP)